

四半期報告書

(第25期第2四半期)

自 2019年4月1日

至 2019年6月30日

株式会社ウィル

兵庫県宝塚市逆瀬川一丁目14番6号

目 次

| | 頁 |
|--|----|
| 表 紙 | 1 |
| 第一部 企業情報 | |
| 第1 企業の概況 | |
| 1 主要な経営指標等の推移 | 2 |
| 2 事業の内容 | 2 |
| 第2 事業の状況 | |
| 1 事業等のリスク | 2 |
| 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 3 |
| 3 経営上の重要な契約等 | 5 |
| 第3 提出会社の状況 | |
| 1 株式等の状況 | |
| (1) 株式の総数等 | 5 |
| (2) 新株予約権等の状況 | 5 |
| (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 | 5 |
| (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 | 5 |
| (5) 大株主の状況 | 6 |
| (6) 議決権の状況 | 7 |
| 2 役員の状況 | 7 |
| 第4 経理の状況 | 7 |
| 1 四半期連結財務諸表 | |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 8 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | |
| 四半期連結損益計算書 | 9 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 10 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 11 |
| 2 その他 | 14 |
| 第二部 提出会社の保証会社等の情報 | 14 |

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 近畿財務局長 |
| 【提出日】 | 2019年8月9日 |
| 【四半期会計期間】 | 第25期第2四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日） |
| 【会社名】 | 株式会社ウィル |
| 【英訳名】 | WILL, Co., Ltd. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 坂根 勝幸 |
| 【本店の所在の場所】 | 兵庫県宝塚市逆瀬川一丁目14番6号 |
| 【電話番号】 | 0797-74-7272 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 友野 泉 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 兵庫県宝塚市逆瀬川一丁目14番6号 |
| 【電話番号】 | 0797-74-7272 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 友野 泉 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第24期 第2四半期 連結累計期間 | 第25期 第2四半期 連結累計期間 | 第24期 |
|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 会計期間 | 自 2018年1月1日 至 2018年6月30日 | 自 2019年1月1日 至 2019年6月30日 | 自 2018年1月1日 至 2018年12月31日 |
| 売上高 (百万円) | 2,474 | 2,611 | 6,054 |
| 経常利益 (百万円) | 109 | 188 | 488 |
| 親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益 (百万円) | 69 | 125 | 329 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 69 | 125 | 329 |
| 純資産額 (百万円) | 2,377 | 2,609 | 2,636 |
| 総資産額 (百万円) | 6,407 | 8,419 | 6,849 |
| 1株当たり四半期（当期）純利益 (円) | 6.17 | 11.07 | 29.04 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益 (円) | 6.14 | 11.06 | 28.92 |
| 自己資本比率 (%) | 36.7 | 30.7 | 38.1 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円) | △1,415 | △741 | △1,042 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円) | △19 | △1,141 | △311 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円) | 1,456 | 1,332 | 1,511 |
| 現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高 (百万円) | 1,551 | 1,136 | 1,687 |

| 回次 | 第24期 第2四半期 連結会計期間 | 第25期 第2四半期 連結会計期間 |
|-----------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 2018年4月1日 至 2018年6月30日 | 自 2019年4月1日 至 2019年6月30日 |
| 1株当たり四半期純利益 (円) | 5.85 | 8.46 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結累計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

① 経営成績

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が継続するなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、米国・中国の通商政策の動向や英国のEU離脱に関する協議など、海外経済の不確実性が一層高まり、景気の先行きは不透明な状況となっております。

不動産関連業界におきましては、投機を目的とした不動産に対する不正融資や施工不良問題などが発生した一方で、住宅ローン金利は引き続き低位で推移しており、実需の住宅取引は安定的に推移いたしました。なお、公益社団法人近畿圏不動産流通機構（近畿レインズ）によりますと、当社グループの主要な営業エリアである兵庫県・大阪府における中古住宅の取扱件数は前年同期比1.6%増加するとともに、平均価格の上昇が継続いたしました。

このような経営環境のなかで当社グループにおきましては、フィービジネスとリフォームの連携強化（収益面）と開発分譲事業の推進（事業規模の拡大）など、ワンストップ体制のシナジー最大化戦略に注力することで、持続的成長と高収益な事業基盤の実現を目指してまいりました。

まず、2019年1月に藤が丘営業所を開設したことや自社サイトをはじめとしたネット集客の強化などが奏功し、住宅を購入されるお客様の来店件数が前年同期比20.8%増加（関西圏：同12.2%増、中部圏：170.0%増）いたしました。これにより、ワンストップサービスの販売機会が増加した結果、「中古住宅×リフォーム×FP」の取扱件数も増加いたしました。また、流通店舗に集まる売却情報を活用するなど、開発物件を積極的に仕入れた結果、開発分譲事業のたな卸資産が前期末と比べて30.6%増加いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,611百万円（前期同期比5.5%増）、営業利益196百万円（同64.9%増）、経常利益188百万円（同72.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益125百万円（同79.5%増）となりました。

報告セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

流通事業におきましては、事業間シナジーの基軸として各種連携に取り組んだ結果、中古住宅の取扱件数が前年同期比34.6%増加したことに伴い、「中古住宅×リフォーム」の請負契約件数も同21.5%増加いたしました。また、来店成約率が同0.7ポイント改善したことや取扱単価の上昇などにより、営業利益率が同8.7ポイント向上いたしました。この結果、売上高は689百万円（前期同期比35.4%増）、営業利益は222百万円（同85.4%増）となりました。

リフォーム事業におきましては、流通店舗に来店されたお客様に対して、住宅購入の検討段階から積極的にリフォームを提案する営業戦略が奏功するなど、引渡件数が前年同期比22.3%増加いたしました。また、第2四半期末の受注残高596百万円（同2.2%増）は、工事完成次第、順次引渡しを行ってまいります。この結果、売上高は866百万円（前年同期比35.7%増）、営業利益は168百万円（同49.3%増）となりました。

開発分譲事業におきましては、期中に販売が可能な物件の仕入れと下半期に販売を予定している兵庫県宝塚市（3,943.48㎡）の戸建プロジェクトなどの物件企画や販促戦略の立案に注力いたしました。この結果、売上高は929百万円（前年同期比27.6%減）、営業利益は39百万円（同30.0%減）となりました。

賃貸事業におきましては、兵庫県宝塚市にある本社ビルに近接した駅前複合施設と立体駐車場を取得し、地域社会との関係強化により新たな土地情報の取得ルートの構築に努めました。また、老舗の料理旅館をシェアハウスにリノベーションした「ダイバーシティ甲陽園」の入居率は80%程度で推移いたしました。この結果、売上高は49百万円（前年同期比350.6%増）、営業損失は22百万円（同営業利益4百万円）となりました。

不動産取引派生事業におきましては、流通事業の成約件数増加に伴い、住宅ローン事務代行が前年同期比41.9%増加したことや損害保険の代理店手数料が同34.0%増加するなど、FP業務の売上高が前年同期比24.5%増加いたしました。一方で、受託販売事業の縮小に伴い、広告制作業務の売上高が同83.8%減少いたしました。この結果、売上高は64百万円（前年同期比0.2%減）、営業利益は35百万円（同19.1%増）となりました。

その他の事業におきましては、中古住宅・リフォーム市場の拡大を目的に、不動産業界のミドルマーケットに対して、事業戦略や人材戦略などのソリューションを提供するなど、コンサルティング業務の売上高が前年同期比52.2%増加いたしました。また、大阪大学・神戸大学合格専門塾「志信館」においては、新規入塾生の募集に取り組みました。この結果、売上高は92百万円（前年同期比47.4%増）、営業利益は21百万円（同305.6%増）となりました。

② 財政状態

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末より1,569百万円増加し、8,419百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より420百万円増加し、5,202百万円となりました。主な要因といたしましては、販売用物件の取得等によりたな卸資産（販売用不動産及び未成工事支出金等）が746百万円、受取手形及び売掛金が135百万円、並びにその他（流動資産）が88百万円それぞれ増加した一方で、仕入債務の支払い等により現金及び預金が550百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末より1,150百万円増加し、3,217百万円となりました。主な要因といたしましては、駅前複合施設と立体駐車場の取得（信託受益権）等により有形固定資産が1,076百万円、投資その他の資産が71百万円それぞれ増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末より1,597百万円増加し、5,810百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末より602百万円増加し、3,823百万円となりました。主な要因といたしましては、販売用物件の仕入資金等として短期借入金413百万円並びに1年内返済予定の長期借入金が76百万円、その他（流動負債）が180百万円それぞれ増加した一方で、支払手形及び買掛金が46百万円並びに未払法人税等が20百万円それぞれ減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末より994百万円増加し、1,986百万円となりました。これは、駅前複合施設と立体駐車場の取得（信託受益権）資金等として長期借入金が増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末より27百万円減少し、2,609百万円となりました。主な要因といたしましては、親会社株主に帰属する当期純利益を125百万円計上した一方で、2018年12月期の期末配当金を153百万円実施したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ550百万円減少し、1,136百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローにつきましては、税金等調整前四半期純利益188百万円に対し、開発分譲物件の新規仕入等によりたな卸資産（販売用不動産及び未成工事支出金等）の増加746百万円、売上債権の増加135百万円及び法人税等の支払額110百万円、仕入債務の減少46百万円並びに前渡金の減少40百万円によりそれぞれ資金が減少した一方で、未払費用の増加66百万円並びに減価償却費36百万円、自社物件の販売契約に伴う前受金の増加35百万円によりそれぞれ資金が増加したことを主な要因として、741百万円の資金減少（前年同期は1,415百万円の資金減少）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローにつきましては、駅前複合施設と立体駐車場の取得（信託受益権）等に伴う有形固定資産の取得による支出1,112百万円を主な要因として、1,141百万円の資金減少（前年同期は19百万円の資金減少）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、駅前複合施設と立体駐車場の取得（信託受益権）等に伴い長期借入れによる収入1,250百万円並びに開発物件の仕入資金等として短期借入金413百万円の資金がそれぞれ増加した一方で、長期借入金の返済による支出（1年内返済予定の長期借入金を含む）178百万円、配当金の支払額152百万円の資金がそれぞれ減少したことを主な要因として、1,332百万円の資金増加（前年同期は1,456百万円の資金増加）となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数 (株) |
|------|--------------|
| 普通株式 | 40,000,000 |
| 計 | 40,000,000 |

② 【発行済株式】

| 種類 | 第2四半期会計期間末 現在発行数 (株) (2019年6月30日) | 提出日現在発行数 (株) (2019年8月9日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|---|-----------------------------|------------------------------------|---------------|
| 普通株式 | 11,345,000 | 11,345,000 | 東京証券取引所 市場第二部 | 単元株式数 100株 |
| 計 | 11,345,000 | 11,345,000 | — | — |

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2019年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総数 増減数 (株) | 発行済株式総 数残高 (株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金増減 額 (百万円) | 資本準備金残 高 (百万円) |
|--------------------------|--------------------|-------------------|-----------------|----------------|--------------------|-------------------|
| 2019年4月1日～ 2019年6月30日 | — | 11,345,000 | — | 277 | — | 198 |

(5) 【大株主の状況】

2019年6月30日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数(千株) | 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%) |
|-----------|-----------------|-----------|-----------------------------------|
| 株式会社岡本俊人 | 兵庫県宝塚市中州2-10-11 | 6,556 | 57.80 |
| ウィル従業員持株会 | 兵庫県宝塚市逆瀬川1-14-6 | 565 | 4.98 |
| 岡田 洋子 | 兵庫県尼崎市 | 200 | 1.76 |
| 花谷 幸夫 | 兵庫県宝塚市 | 158 | 1.39 |
| 友野 泉 | 兵庫県宝塚市 | 121 | 1.07 |
| 宮前 いずみ | 大阪府池田市 | 119 | 1.05 |
| 包 賢 | 兵庫県宝塚市 | 112 | 0.99 |
| 松浦 繁 | 滋賀県草津市 | 93 | 0.82 |
| 垂谷 保明 | 兵庫県宝塚市 | 89 | 0.79 |
| 坂根 勝幸 | 兵庫県尼崎市 | 67 | 0.60 |
| 計 | — | 8,084 | 71.26 |

(注) 2013年12月5日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が、2013年11月29日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は次のとおりであります。

| | |
|---------|----------------------------|
| 大量保有者 | JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社 |
| 住所 | 東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 東京ビルディング |
| 保有株券等の数 | 株式 416,000株 |
| 株券等保有割合 | 3.68% |

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年6月30日現在

| 区分 | 株式数 (株) | 議決権の数 (個) | 内容 |
|-----------------|-----------------|-----------|----|
| 無議決権株式 | — | — | — |
| 議決権制限株式 (自己株式等) | — | — | — |
| 議決権制限株式 (その他) | — | — | — |
| 完全議決権株式 (自己株式等) | — | — | — |
| 完全議決権株式 (その他) | 普通株式 11,343,200 | 113,432 | — |
| 単元未満株式 | 普通株式 1,800 | — | — |
| 発行済株式総数 | 11,345,000 | — | — |
| 総株主の議決権 | — | 113,432 | — |

(注) 単元未満株式には、当社所有の自己株式66株が含まれております。

② 【自己株式等】

2019年6月30日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数 (株) | 他人名義所有株式数 (株) | 所有株式数の合計 (株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%) |
|------------|--------|---------------|---------------|--------------|-------------------------|
| — | — | — | — | — | — |
| 計 | — | — | — | — | — |

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

| 新役職名 | 旧役職名 | 氏名 | 異動年月日 |
|---------|-------|-------|------------|
| 代表取締役社長 | 代表取締役 | 坂根 勝幸 | 2019年4月22日 |
| 取締役 | 代表取締役 | 友野 泉 | 2019年4月22日 |

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年1月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2018年12月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2019年6月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 1,687 | 1,136 |
| 受取手形及び売掛金 | 446 | 581 |
| 販売用不動産 | 862 | 1,057 |
| 未成工事支出金 | 1,677 | 2,228 |
| 未成業務支出金 | — | 0 |
| その他 | 108 | 197 |
| 流動資産合計 | 4,782 | 5,202 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 829 | 830 |
| 土地 | 1,367 | 1,367 |
| 信託建物 | — | 518 |
| 信託土地 | — | 591 |
| その他 | 100 | 98 |
| 減価償却累計額 | △412 | △444 |
| 有形固定資産合計 | 1,884 | 2,961 |
| 無形固定資産 | | |
| その他 | 10 | 12 |
| 無形固定資産合計 | 10 | 12 |
| 投資その他の資産 | 172 | 243 |
| 固定資産合計 | 2,067 | 3,217 |
| 繰延資産 | 0 | — |
| 資産合計 | 6,849 | 8,419 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 233 | 186 |
| 短期借入金 | 2,272 | 2,685 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 300 | 377 |
| 未払法人税等 | 115 | 95 |
| その他 | 298 | 479 |
| 流動負債合計 | 3,220 | 3,823 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 991 | 1,986 |
| その他 | 0 | — |
| 固定負債合計 | 992 | 1,986 |
| 負債合計 | 4,212 | 5,810 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 277 | 277 |
| 資本剰余金 | 198 | 198 |
| 利益剰余金 | 2,132 | 2,104 |
| 自己株式 | △0 | △0 |
| 株主資本合計 | 2,608 | 2,580 |
| 新株予約権 | 28 | 28 |
| 純資産合計 | 2,636 | 2,609 |
| 負債純資産合計 | 6,849 | 8,419 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 2,474 | 2,611 |
| 売上原価 | 2,104 | 2,104 |
| 売上総利益 | 369 | 506 |
| 販売費及び一般管理費 | ※ 251 | ※ 310 |
| 営業利益 | 118 | 196 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 0 | 0 |
| 受取配当金 | 0 | 0 |
| 受取保険金 | — | 5 |
| 受取家賃 | 0 | 2 |
| その他 | 1 | 3 |
| 営業外収益合計 | 1 | 11 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 10 | 15 |
| その他 | 0 | 4 |
| 営業外費用合計 | 11 | 19 |
| 経常利益 | 109 | 188 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 109 | 188 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 47 | 88 |
| 法人税等調整額 | △8 | △26 |
| 法人税等合計 | 39 | 62 |
| 四半期純利益 | 69 | 125 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | — | — |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 69 | 125 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 69 | 125 |
| 四半期包括利益 | 69 | 125 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 69 | 125 |

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 109 | 188 |
| 減価償却費 | 21 | 36 |
| 受取利息及び受取配当金 | △0 | △0 |
| 支払利息及び支払保証料 | 10 | 15 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △76 | △135 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | △1,366 | △746 |
| 前渡金の増減額 (△は増加) | △30 | △40 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | △31 | △46 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | 5 | 5 |
| 未払費用の増減額 (△は減少) | 21 | 66 |
| 前受金の増減額 (△は減少) | 58 | 35 |
| その他 | △20 | 7 |
| 小計 | △1,297 | △614 |
| 利息及び配当金の受取額 | 0 | 0 |
| 支払利息及び支払保証料の支払額 | △11 | △16 |
| 法人税等の支払額 | △106 | △110 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △1,415 | △741 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △17 | △1,112 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 0 | 0 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △2 | △2 |
| その他 | — | △26 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △19 | △1,141 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | 1,308 | 413 |
| 長期借入れによる収入 | 741 | 1,250 |
| 長期借入金の返済による支出 | △455 | △178 |
| 配当金の支払額 | △146 | △152 |
| その他 | 8 | — |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 1,456 | 1,332 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 21 | △550 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,530 | 1,687 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | ※ 1,551 | ※ 1,136 |

【注記事項】

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日) |
|------|---|---|
| 役員報酬 | 62百万円 | 62百万円 |
| 給料手当 | 71 | 74 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日) |
|-----------|---|---|
| 現金及び預金勘定 | 1,551百万円 | 1,136百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 1,551 | 1,136 |

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|------------------|-------------|------------|-------|
| 2018年3月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 147 | 13.00 | 2017年12月31日 | 2018年3月30日 | 利益剰余金 |

II 当第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|------------------|-------------|------------|-------|
| 2019年3月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 153 | 13.50 | 2018年12月31日 | 2019年3月29日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年1月1日至2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------------------|---------|-------|-------|----|-------------|-------|--------------|-------|--------------|--------------------------------|
| | 流通 | リフォーム | 開発分譲 | 賃貸 | 不動産 取引派生 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 431 | 621 | 1,283 | 10 | 64 | 2,411 | 62 | 2,474 | - | 2,474 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | 78 | 16 | - | - | - | 94 | 0 | 95 | △95 | - |
| 計 | 509 | 638 | 1,283 | 10 | 64 | 2,506 | 63 | 2,569 | △95 | 2,474 |
| セグメント利益 | 120 | 113 | 56 | 4 | 29 | 323 | 5 | 328 | △210 | 118 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行う広告制作業務(受託販売物件に関するものを除く)、受託販売事業及び教育事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△210百万円には、セグメント間取引消去△27百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△183百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------------------|---------|-------|------|-----|-------------|-------|--------------|-------|--------------|--------------------------------|
| | 流通 | リフォーム | 開発分譲 | 賃貸 | 不動産 取引派生 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 629 | 846 | 929 | 49 | 64 | 2,518 | 92 | 2,611 | - | 2,611 |
| セグメント間の内部売上 高又は振替高 | 60 | 20 | - | - | - | 80 | 0 | 80 | △80 | - |
| 計 | 689 | 866 | 929 | 49 | 64 | 2,598 | 92 | 2,691 | △80 | 2,611 |
| セグメント利益又は損失 (△) | 222 | 168 | 39 | △22 | 35 | 443 | 21 | 464 | △268 | 196 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行う広告制作業務(受託販売物件に関するものを除く)、受託販売事業及び教育事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△268百万円には、セグメント間取引消去△19百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△249百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結累計期間より、従来「その他」に含めていた賃貸事業について、同じく「その他」に含めていたシェアハウス事業と一体となった事業推進を行うため、「賃貸事業」として集約し独立して記載しております。また、従来「受託販売事業」に含めていた一部仲介業務を「流通事業」に変更し、受託販売事業は重要性の低下により「その他」に含めて記載しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日) |
|---|---|---|
| (1) 1株当たり四半期純利益 | 6円17銭 | 11円07銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円) | 69 | 125 |
| 普通株主に帰属しない金額 (百万円) | — | — |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円) | 69 | 125 |
| 普通株式の期中平均株式数 (千株) | 11,342 | 11,344 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 | 6円14銭 | 11円06銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円) | — | — |
| 普通株式増加数 (千株) | 45 | 2 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要 | — | — |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月8日

株式会社ウィル
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大村 茂 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 坂本 潤 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ウィルの2019年1月1日から2019年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ウィル及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。